

編集室から

今年の金沢は、雪が少ないようです。それでも2度ほど、多目の雪が降ったそうですが、いずれも金沢を留守にしている、目撃・体験はしていません。結局今期は未だ除雪をしていない状況です。

今月号の表紙写真は、一年前の3月10日に降った雪を事務所から撮影したものです。この写真を見ると、今年も降雪の可能性はありますから、油断は禁物なのですが、上京した際に梅や、早咲きの桜の開花情報に接すると、金沢ももう降らないような気になってきます。

今月号も発行が遅れてしまいましたが、そのため新幹線よりも一足早く、能越自動車道が七尾まで全線開通した処を走ることができました。開通日が好天の週末と重なり、隣県から中能登を訪れる方々が集中して大混雑に。安近短の結果ですが、一方でようやく七尾湾と伊勢湾が、高速道路でつながりました。

我が家の後ろの桃源郷のような景観を真一文字に高架橋が貫き、田舎に在っても大きく一つの時代の区切りを感じさせます。インターチェンジが自宅から近く、全国どこへでも至便になった事を喜ぶことにします。

月の半ばに北陸新幹線の延伸を迎える金沢は、ある種のバブルのような雰囲気です。心待ちにしている関係業界の方に叱責されそうですが、このバブルは1年後、北海道新幹線開業で収束すると観ています。

北海道と北陸。マス市場に支持されているのは、明らかに前者でしょう。その方が結果的に北陸には幸せな気がします。経済とは、つまるところ単価×数量です。伝統工芸・伝統芸能など、やや重めの文化をブランドの源泉とするこの地には、単価を切り下げてでも数量で稼ぐというスタイルは似合わず、ご縁を紡ぐように接したいと感じているのですが...。(は)



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆
していただいている川島さん
が「能登の夜市」の姉妹店を
開店されました。

上京された際、ご利用になっ
てみてください。

もちろん、川島さんご自身も
お店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00~24:00

金曜17:00~28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3ライオンズマン
ション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術
者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、
計画マンがどのようなことを考えているのか
などに触れて、少しでも業界を知っていた
できればと考えて編集しています。

2015/03

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2015/03

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

弥 生



金沢市もりの里にて
by hama

濱のつばやき 『菌果玉状』

先月二十二日に放送されたNHKスペシャル「腸内フローラ ～解明！驚異の細菌パワー～」は、驚きだった。

腸内フローラとは、我々の腸の中に棲む細菌たちの生態系のこと。

健康不健康に関らず、人間の腸内には数百種類、百兆個以上の細菌が棲んでいる。近年の研究で、彼らが作り出すさまざまな物質が、宿主の健康はもとより、感情にまで影響を及ぼしていることが明らかにされているという。

テレビCMの告知効果で、腸内に善玉菌と悪玉菌がいて、それらの勢力バランスが、健康やお肌の調子など美容に深く関わっていることは、よく知られるようになった。

ところが研究が進むにつれ、その影響が、これまで考えられてきた以上に広範かつ深いため「腸内フローラ」は、劇的に人類の寿命を延ばした医療革命「ワクチン開発」「抗生物質の発見」に匹敵すると考えられ、各国で国家プロジェクトが次々と起こされているらしい。

番組では、これらの最新の研究動向が紹介されていた。どうやら今後、驚きの研究成果が爆発的に増加する前兆に今、あるような様相だ。

腸内に棲む細菌は、自らの生命活動によって、食物繊維を中心に分解して摂り込み（食べ）排出している。これらの物質が、腸を通じて人間の体内に吸収される結果、健康や美容に影響が出る。というメカニズムなのだ。

その影響は、お肌の調子に留まるものではなく、肥満など、総合的な状況にも及んでいるらしい。肥満になりやすい人と、そうでない人とは腸内に棲んでいるバクテロイデスなどの細菌が少ないという。この細菌は、短鎖脂肪酸を出す。これが肥満細胞が脂肪の取込を防ぎ、筋肉に働きかけて燃焼を促している。短鎖脂肪酸が減るとインスリンの分泌も減り、糖尿病にも影響する。このため、短鎖脂肪酸を排出する腸内細菌を増やす糖尿病の治療薬の開発が、米国農務省の支援で進められている。

そればかりではない、老化・アレルギー・貧血・薄毛予防を始め、癌といった疾病まで、腸内細菌の影響が及んでいるらしい。我が国で発見された腸内細菌が排出するDCAという物質が、発ガンを促す研究に世界の注目が集まっている。

腸内細菌には、逆に病気を予防する可能性があるという。別なある細菌は、女性ホルモンに似たエクオールを出す。エクオールを摂取すると、コラーゲンの働きを上げて、シワが浅くなるばかりでなく、骨密度も高めるといふ。美魔女は、腸内細菌が決められているのかもしれない。

我が国では余り知られていないが、米国で年間一万人以上が死に至る感染症系の難病の患者に、健康な人の腸内環境をそのまま移植すると、早ければ翌日には正常な状態に戻るといふ。あまりにも劇的な効果があるので、米国医学会ではこの方法が強く推奨されているらしい。

「腸内環境をそのまま移植する」というと綺麗な言葉だが、要は「健康な人の便を、患者の腸内にそのまま入れる」ことを意味している点に気付くと、なんとも驚きの「治療法」でないか！

腸内細菌を制すれば、これまで治療が困難であった病気や、治療法が判らなかつた病気も治せる可能性が開かれてきている。

「人間は脳で物事を考えている」と考えられてきた。ところが、この常識も疑わしいらしい。

神経細胞が集中している臓器は、実は脳だけではない。大小の腸の周りにも非常に多くの神経細胞が集中している。一部に「人間は腸でも考えている」と言われている由縁だ。

腸内細菌が輩出した物質には神経細胞を刺激するものが少なくないという。膨大な神経細胞が集中する腸は、あたかも敏感なアンテナともいえる。

腸内細菌の排出物質が、人間の思考にも影響を与えている根拠は、ここにある。自分の腸内細菌の状態が、今の気分・感情の傾向に影響をされているとしたら…。

マウスの実験では、腸内細菌を入れ替えると性格が変わったり、コミュニケーション能力が正常に戻ったりするという結果が出ている。

食生活を始め、何かを口に入れることで変わる可能性がある腸内細菌の勢力分布には、これまでの常識を覆すほど重視することが大切なのかも知れない。

美容と健康、心理・思考の両面から、人間といえども腸内細菌なくては生命維持に支障を及ぼす「共存」関係にある、というのだ。

地球上に存在する膨大な細菌は、およそ七十のグループに分類できるという。人間の腸内に棲んでいる細菌は、そのうちなんと四種類だけ。つまり、人間の身体は、無意識の内に入り込む細菌を選別し、自分の中に棲むことを許可しているものだけが、腸内に息づいている。

ここまで来ると、まるで生命の神秘！ではないか。

まさに、菌果玉状（腸内細菌による結果は、完璧な球のようである）か、菌果極上といえるのである。「ウンチは汚い」と教えるのは誤りだ、とされる時代が近いのかもしれない。

我々の常識が、根底から覆される発見が、急増していることに、時代が激変する予感がする。

祝！北陸新幹線金沢開業。その影で、小松~羽田便はどうなるのだろうか。本コラムでは、公表されたダイヤと料金等の客観的事実から、金沢~東京間の鉄・空路を淡々と比較してみたい¹⁾。

鉄道は開業前後で、「1時間19分短縮(最速での比較)」、「便数1.8倍・輸送能力3.4倍(米原経由は考慮せず)」、「1,000円程度の値上げ」となる。所要時間で逆転される空路は、「便数維持・輸送能力70%(機材小型化)」、「大幅値下げ(安値で77%)」という策で対抗する。石川県は、北陸新幹線金沢開業後、首都圏~石川県の航空需要が約72%に減少すると推計²⁾しているが、航空会社の機材小型化はこれに沿ったものとなっている。

価格面からみると、28日以前の予約で鉄道に対する明確な逆転現象が生じるがその差はわずかであり、どこまで流出を食い止められるかは未知数であろう。一方で、石川県加賀南部~福井県嶺北北部においては、確保された便数でこれまでよりも格安に乗れる空路は魅力的だ。また、石川県の平成27年度当初予算案では、様々な小松空港利用促進策が重点的に掲げられており³⁾、新幹線開業効果の最大化とその各地への波及のためには、航空ネットワークもまた欠かせないものとして位置づけられている。

しかしながら、東京と新幹線で2時間半で結ばれた地域において、定期便の就航しているところが大阪以外にないという事実は重い。もし、これまで類似地域が歩んできた道を辿り、搭乗率の低い状態が続けば、航空会社としても機材小型化の次に便数削減から廃止へと進むことは自明である。さらには、北陸新幹線敦賀延伸の前倒し方針が打ち出されたいま、石川県加賀南部~福井県嶺北北部における小松空港の利用拡大に対する期待期間もまた短縮される。

以上のように厳しい状況に立たされる小松~羽田便であるが、その帰趨は市場原理に任せるべきなのか、それとも欠かせないインフラとして地域が支えるべきなのかを見極める必要がある。外国人観光客の急増、能登空港との関係性、格安航空会社の動向等を見据えつつ、地域におけるその経済的効果および社会的効果を測りながら、敦賀延伸までの時を歩まねばならない。

注1：金沢駅~東京駅間での比較。所要時間、料金、輸送能力等は、各社のホームページから入手した情報をもとに筆者が算出。また、割り引きっぷについては、その入手に要する負担感を考慮して選択したが、これもあくまで筆者の感覚によるもの。

注2：「石川県『新幹線開業影響予測調査』(平成19年3月)」。首都圏から石川県への入込客数は60万人から91万人に増加、交通機関分担率は、鉄道25%、航空61%から鉄道67%、航空29%へと転換し、その結果、航空需要は約72%になると推計

注3：石川県「平成27年度当初予算主要事業」の「北陸新幹線金沢開業効果の最大化と県内各地・各分野への波及、(2)航空ネットワークを活用した交流の促進」

2月から毎週土曜日21時からNHK土曜ドラマ「限界集落株式会社」をご存知ですか？限界集落を舞台に、主人公の女性が地域住民を巻き込みながら、農業の六次産業化をキーワードに地域をひとつの会社と見なして再生に取り組むドラマです。

地域振興を齎った人間としては、一応見なければならぬかなという義務感もあり、かみさんが楽しみにしている民法のドラマ枠を懇願して譲ってもらい、HDDに録画して観ております。まだ第二回の時点でこういうのも何なのですが、感じたことが2点ほど。

1.まさにJAの改革案が協議されている中でどこか政治的な臭いがしてしまいます(笑)

安倍政権の政策に批判的なコメントをしたニュース9のキャスターの交代劇など昨今のNHKが安倍政権のプロパガンダに使われるのでは？と勘繰ってしまうのは私だけでしょうか。

2.JAについてきちんとした理解が必要

ドラマの中ではJAが農業振興における悪役的な扱われ方(確かにそういう部分もありますが)をされております。確かに、近年のJA(全中)は

- ・規格外商品を扱わない。つまり自社製品でもある農薬の使用を推奨する。
- ・監査料という名目での上納金による地域農協および農家への圧迫
- ・大規模な票田を背景に、時の政府に対して圧力をかける政治団体化しつつあるなど、本来の「日本の農業繁栄」とはかけ離れてきたイメージがあります。ただ、地域農協の中には、農家の育成や新たなビジネスモデルづくりなどに注力しているところもあります。

このドラマだけを観ている方からすると、「JA=新しいチャレンジをする農家の敵」という認識を与えかねません。現在の農協改革で伝えられる一側面だけではなく、その成り立ちから、担ってきた役割や機能、そして構造を理解しなければいけないと改めて感じさせられました。

六次産業化という言葉が叫ばれて随分が経ちますが、私自身、農家、漁師が単独でR&Dから製造(生産)、マーケティング、流通開拓~販売、回収までを一貫して行う事業化を推進するのは正直厳しいと考えています。それぞれにやはり専門性という持ち分があるからです。細かい話はここでは書ききれませんが、“儲かる一次産業”を実現するためには、農地法など法制度改革も必要ですが、やはりこれまでの地域の農業を熟知した農協との連携が不可欠と考えています。そこに市場に近い外部の資本を絡めた、六次化こそ具現性が高く、かつ持続可能な形かと考えます。

例えば、私は今後首都圏の飲食店のネットワーク形成を推進し、仕入れという側面において大手企業に負けない強みを持ちたいと考えています。そのようなマーケットと地域農協・漁協、農家・漁師を結合させるモデルなんておもしろいんじゃないかな。

『富士の国から ~大魔神のたび~ 』

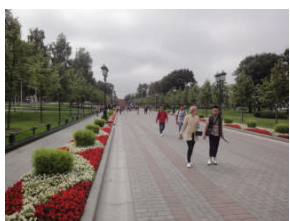
静岡県小山町経済建設部専門監 溝口 久

ホテルにはSPAが付いていた。サンクトペテルブルクのホテルにはジムとサウナがあった。世界を旅する長女はしっかりと水着を持っていたが、小生は持参していない、う~ん悔しい。イギリスでも同じ場面があった。海外旅行には水着が欠かせない。9月5日、ロシアの旅の最終日となった。今日も朝から太陽の光が注ぎ最高の日和となった。今回は泊まったホテルに朝食が付いていた。バイキングに用意されている内容は申し分ない。たんまり朝食を食べて昼を抜くというのが、小生の旅のスタイルだ。食事を済ませ、スーツケースをホテルに預け、モスクワに来たら外せないクレムリンに向かった。

クレムリンはロシア連邦政府の建物だけでなく、大聖堂、宮殿も含む城壁になっている。12世紀ごろの創建とみられ、増改築を経て、帝政時代にはロシア皇帝の居城とされていた。1990年、「モスクワのクレムリンと赤の広場」の名称で世界遺産に登録された。総面積は約26ヘクタール。城壁に囲まれた構内には、大小新旧様々の宮殿、大聖堂、20の塔がある。

ゲートがあって持ち物検査を済ませて中に入った。見渡すと子供たちが乗馬をしたり、大きなステージが設けられイベントの開催の準備をしていたり、出店もあって、これが大統領官邸もあるクレムリンの中なのかと思いきや、どうやらここは赤の広場だった。赤の広場と天安門のイメージが重なるせいか、ただっ広い広場を想像していたが、全く様相は異なった。

クレムリンの中に入るには、まずは350ルーブルのチケットを買う。観光シーズンの盛りは過ぎているから並ぶことなく買ったが、7.8月であればチケット売り場が大混雑するとのこと。何せロシアでは切符を買うに時間がひどくかかるので注意したい。いよいよクレムリンへ入城、門入り口には若い兵士が微動だにせず立っている。中にはいると右



手に国立クレムリン宮殿が現れる。1959~61年に建てられた鉄筋コンクリート造にガラスのカーテンウォールの社会主義モダニズム建築である。6000人を収容可能な議事堂で、ソ連共産党大会や国際会議場として使用された。周囲の歴史ある建築とは一線を画するどころか全くの異物に、この宮殿のみ世界遺産としての指定がなされなかった。

次はクレムリン大宮殿だ。全長125メートル、奥行き63メートルの大建築で、外観三階建て、内部二階建てである。1839年から49年にかけて建設された。規模と豪華さにおいて、同時期に造営されたヨーロッパ列強の宮廷建築と比較して、これを凌駕しているとの説明がネット上にあるが、見学はできない。

旧元老院にはロシア大統領官邸が入っている。頂部にはドームがあり国旗が掲揚されるが、この日はなかった。プーチン大統領は不在であることを示している。

大統領府は1932年から34年に建築、官邸とともに周囲と同じ黄色の外観で調和が取れている。そして、大聖堂のいくつかを見て、クレムリンの見学は終えた。

ホテルに戻りスーツケースとともにタクシーに乗り込み空港直行の鉄道駅に向かった。モスクワの道路は六車線がざらにあるのに渋滞している。街中の駐車料金は高いが、地下鉄、トロリーバス、路面電車が頻繁に走り料金も安い。街中への車の流入を少なくするためと考えられるが、車の量は多い。渋滞で思う時間につくか心配したが、ドライバーが大丈夫と言った時間内に無事着いた。出発の2時間前には余裕で着き無事にチェックイン。ここで長女と別れた。彼女はその後モスクワの別の友人宅に3泊し、ロンドンに飛びオランダにも足を延ばし帰国は9月末、小生の銀行口座から落ちるゴールドカードを持っての旅が続く。

また、サンクトペテルブルク~モスクワに行ってみたいが、モスクワ空港での乗り換えは二度としたくない。次回は、成田-仁川(インチョン)経由でサンクトペテルブルクに入るつもりだ。(おわり)

